

第2回 第4次福知山市地域福祉計画策定委員会

【 議 事 要 約 】

開催日時	令和4年11月25日（金曜日） 13時30分～15時40分			
会 場	福知山市防災センター研修室（2階）			
出席委員 （15名）	荒木 早苗 関 三千彦 ◎長谷川 豊 夜久 昭広	植田 孝太郎 塚本 直矢 原田 寿樹 ○夜久 豊基	大野 森志 西垣 哲哉 松本 清香 柳井津 佑健	小坂 晴 西村 勝 森本 千代子
欠席委員 （4名）	岡野 和樹	松下 正美	森川 朋子	山本 正一
傍聴者	0名			
事務局	福祉保健部：柴田部長 社会福祉課：大西課長・高橋係長・内井主査 障害者福祉課：西山課長 高齢者福祉課：荒賀課長 地域包括ケア推進課：高山課長 社会福祉協議会：宮本課長・竹本 計画サポート：(株)サンワコン 宇野・高木			

◎：委員長 ○副委員長 ※敬称略

◆ 次 第

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 説明・報告事項
 - (1) 第4次計画に向けた現状の分析について（資料1）
 - (2) 重層的支援体制整備事業実施計画について（資料2）
 - (3) 第4次計画体系図（案）（資料3）
 - (4) 第4次計画本文（案）（資料4）
- 4 副委員長あいさつ
- 5 閉 会

【配付資料】

資料 1	第 4 次計画地域福祉計画の策定に向けての分析
資料 2	重層的支援体制整備事業実施計画の概要について
資料 3	第 4 次地域福祉計画の体系図(案)
資料 4	第 4 次福知山市地域福祉計画(案)
資料 5	福知山市第 4 次地域福祉計画策定員会連絡票
参考資料 1	第 4 次福知山市地域福祉計画策定委員会名簿
参考資料 2	第 1 回第 4 次福知山市地域福祉計画策定委員会等の意見整理
参考資料 3	第 3 次計画の数値目標の進捗
参考資料 4	「第 3 次福知山市地域福祉計画」の評価
参考資料 5	福知山市 地域福祉に関するアンケート調査 調査結果報告書
参考資料 6	「第 4 次福知山市地域福祉計画」策定に関するヒアリング調査の概要
参考資料 7	住民福祉懇談会開催レポート
参考資料 8-1	地域福祉に関するアンケート調査結果報告書—中学生・高校生対象—
参考資料 8-2	地域福祉に関するアンケート調査結果報告書—社会福祉施設対象—

【主な意見】

- 資料 3 にあるように、重層的支援体制整備事業を地域福祉計画の中に織り込んでいくことが、今回のポイントの一つである。重層的支援体制整備事業を行う自治体には、実施計画をつくる努力義務がある。前回の策定委員会でも説明があったが、重層的支援体制整備事業は相談支援、参加支援、まちづくり支援等、新しいものではない。今の事業に横串を通して取り組む事業であり、別々に計画するよりも地域福祉計画に包含して進行管理等をしていくのが効果的であるということで、このようになったと考える。
- 避難行動要支援者について、地域でどこまで支援できるか、情報を共有できるかが課題になっていると思う。前もって避難ができるようにということであるが、自治会、自治防災組織等、地域としては情報の共有がなされている必要がある。情報が共有されていることを数値目標にすることもあると考えられる。水害、地震等、災害の形によって支援のあり方も変わってくる。そういうことを考慮しながら、要支援者への対応の考え方を盛り込んで、少しでも反映できたら良い。
- 資料 4 の P56、P57 のオレンジネットワーク会議について、「地域包括ケアシステムの構築」と言われて 10 年くらい経つが、地域ケア会議がなかなか進んでいない。この重層的支援会議は、その上に来る行政の会議だと思うが、行政の窓口に行っているいろいろ相談して、それについて関係者が集まって会議を持ち、その後、具体的に動くときには行政だけでなく、包括ケアシステムを構築する上で、介護保険制度の訪問型サービス B 等を地域の中で進めて行こうという形で動いてきたと思うが、そのようなことができつつあるのに、見えてこない。

○「まちづくり構想 福知山」の中にはSDGsの17項目、ゴール、ターゲットが記載されている。資料4のP5にSDGsの記載があるが、市民が皆「まちづくり構想 福知山」を読んでいるわけではなく、ここにせめてゴールくらいは書いておくべきではないか。それが、P58の基本目標に繋がっていると思うため、説明が必要だ。

○3次計画からの違いとして、理念に「オレンジのまちづくり」が加わっており、サブタイトルとしては良いと思うが、実際に「オレンジのまちづくり」となった時に、知らない人もいると思うため、周知・PRが必要だ。

○資料4のP73に「民生委員・児童委員との連携」を取り上げていただいているが、民生委員・児童委員の認知度は大変低い。委員の活動が見えていない、特に若い人たちの理解が低い。これについては4～5年前から教科書に民生委員について説明する部分が掲載されており、また、民生委員の活動を見える化する必要があると考え、新聞に取り上げてもらうなどの活動をしてきた。民生委員は50～70歳代であり、民生委員はしんどいという風評もあり、欠員が出ると次の委員が決まらないということがある。深刻な状況であり、民生委員の負担軽減等、支援策を強化していただき、目標にある認知度の上昇を図って行きたい。

もう1点、防災、災害時の支援については、市の危機管理室等できざまな取組が始まっており、社会福祉協議会のボランティアを含めて、今後、本当にケアしないといけない人たちをどのように支援していくか、形ができた後、具体的にどうするのかを考えていく必要がある。

○私たちの地域は水害が多発するため、これに対する地域防災の活動は進んでいる。福祉、避難の問題もさることながら、地域全体での防災組織というところに重点を置いている。要支援者の名簿は市からもらっており、自治会長と民生委員・児童委員で共有しているが、少しずつ役員の負担が大きくなってきている。個人情報問題もあり、また、重度の方への対応は地域では無理である。専門の方がいないと重度の方への支援ができなくなると、避難活動については問題になってくる。

○見せ方というところとオレンジの周知の仕方を精査する必要があるように感じた。資料が届いたときに家族で見たが、分かりにくい、見にくい、難しいという声があった。中でも何が大事なのか、見せ方を工夫して分かりやすくできたら良い。

○夜久野地域は高齢化率が50%以上と、非常に高齢化が進んでおり、数年先には支え合い事業の利用者はどんどん増えるが、支えてくれる人の数が足りなくなるという不安を抱えている。もう一つは、協議会の福祉・安心部会で話をしているが、防災について、自主防災会があるが、コロナ等の影響もあって活動ができていない。最近の豪雨の状況を考えると、いつ夜久野でも災害が起きるか分からない、高齢者の避難ができるのかが話されている。自治会長にも防災に向けて動いていただくとありがたい。

○福祉というのは様々なことを網羅しなければいけないということを改めて実感している。例えば、防災、移動手段的確保、大学との連携等、それだけで1年間通じて議題にするような

テーマが含まれており、これだけのボリュームになるのはやむを得ないと思う。概要版を作って市民に分かりやすく示してほしい。

○私たちが生活するためにはいろんな領域と繋がっていかないといけない。まちづくり、地域づくり、そこで暮らす人々が自分の生命、生活を守っていく上で、これは福祉、これは防災、これは産業振興、そのように分ける時代ではなくなってきている。そのためには横の連携ネットワークが重要になってきている。いろいろな会議を通じて意見交換しながら、情報、個人情報共有して、必要なところに支援を届けることができこそ、「誰一人取り残さない」ということに繋がる。そこはナイーブな部分であり、慎重に進めて行かなければならない。必要とするところ、声なき声のところ支援が少しでも届くことに繋がるような計画になれば良い。